

1 年 C 組 美術科 学習指導案

授業者 野口 理佳

1 時 間（場所） 11:10～12:00（美術室）

2 個人研究テーマ

生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める対話的な学習の展開

3 研究テーマ設定の理由

現在、グローバル化や情報化の進展などにより、生徒たちを取り巻く社会や生活は急速に変化し、価値観も多様化している。そのため美術科の学習においては、生徒が他者とのコミュニケーションを図る中で主体的・協働的に造形的な見方・考え方を働かせ、生活の中で美術がどのような働きをし、社会に関わっているのかを理解する学習が重視されている。このような学習を通して、これからの社会を生きる生徒たちに豊かな人間性や創造性を育み、心豊かに生活しようとする態度を身に付けさせることは、自立した人間として、他者と協働しながら、新たな価値を創造する力の育成に寄与するものであり、これは「持続可能な社会」を支える資質・能力の育成につながるものと考えます。

美術科では、昨年度、生徒の造形的な視点に基づく思考力・判断力・表現力を高めるために、コミュニケーション活動を効果的に設定し学習活動を進めてきた。今年度も、表現における発想・構想の過程や鑑賞活動の中で対話的な学びを取り入れながら、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深めさせたいと考え、本研究テーマを設定した。

4 題材名 暮らしの中の美と用について考えよう

5 題材目標

○暮らしの中のデザインを観察し、他者との意見交換により見方を広げ、美しさと機能性の大切さを理解する。

○使用する目的に合った通学鞆の条件を踏まえ、よりよい鞆にするための工夫点を考え、他者にその根拠を明確にしながら説明することができる。

〔本質的な問い〕

生活を美しく豊かにするデザインとはどのようなものか。

〔永続的な理解〕

生活を美しく豊かにするデザインとは、使用する目的や人、使用環境に合った美しさと機能性を兼ね備えたデザインである。

6 本題材と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒（40 名）は、美術科の学習において、興味・関心を持ちながら集中して制作に取り組むことができる。デザイン分野の学習については、色や構成について既習しており、構成作品の制作では、配色の効果を意識しながら丁寧に着色することができた。また、7 月に実施したポスター作品の鑑賞では、作者の思いを汲み取りながら、小集団学習の中で表現の工夫を積極的に分析し、見方を深める姿が見られた。しかし、鑑賞文の記述を見ると、主観的な見方になっている生徒もあり、根拠を明確にしながら思考を広げていく論理的思考力をさらに伸ばしていく必要性を感じた。また、1 月に実施した商品パッケージの鑑賞では、販売時期や商品のイメージを色や形、文字の一つ一つに着目して関連付けていたが、販売対象年齢に合わせた統一感等、全体的なまとまりを意識して鑑賞した生徒は少なかった。パッケージから商品の情報を探すことが鑑賞の中心となり、全体のまとまりや美しさを味わうところにまでは至っていなかった。そこで、デザインの基礎を学ぶ 1 年生の時期に暮らしの中にあるデザインの役割について学び、一つの作品として全体を捉えながら、美しさと機能性のバランスの大切さを理解することは今後の制作に生かされると考えた。

(2) 題材について

本題材は、「暮らしの中のデザインから使用する目的や環境に合った美しさや機能性を発見し、その大切さを理解するとともに、自分たちにとってよりよいものにするための工夫点を考え、根拠を明確にしながら説明する。」ということを中心にねらいとしている。生徒は、多くの日用品を使用しながら生活しており、学校や家庭等の使用する場面によって使い分けている。中学生になると、学校外で着る服や文具等を自分で選んで購入している生徒も多く、美しさに加え機能性も重視して選んでいる。本題材では、4月から使用してきた通学鞆のデザインを分析し、学校生活に合った美しさや機能性があることに気付かせるのと同時に、改善点にも目を向けさせたい。そして、分析した結果を基に、自分たちにとってよりよく工夫された通学鞆のデザインを考えさせることで、生活をより心豊かなものにするために、改善点を見だしよりよいものを追求する姿勢を持たせたい。

(3) 指導について

美術科では、論理的思考力を、鑑賞活動では「多様な価値観に触れながら見方を広げるとともに、自分なりの価値意識を持って分析し、根拠を持って説明することができる力」、表現活動では「基礎的な知識や技能を基に構想を練り、課題を解決しながら主題に迫ることができる力」としている。これらの力の育成や題材目標に迫る指導の工夫として以下のことを取り入れる。

最初の授業では「自分にとって心地よいもの」を紹介し合い、心地よく感じる根拠を明確にすることで、美しさや機能性に着目させたい。本時の授業では、美しさや機能性についての理解を深めるために、小集団による話し合いによって、普段使用している通学鞆のデザインを分析する場面を設定した。通学鞆は生徒が実際に使用しているため細部に渡って分析することができ、話し合いに消極的な生徒にとっても、根拠を持って説明しやすいと考える。ランドセルや肩掛け鞆、登山用リュック等、他種類の鞆やリュックと比較させることで、学校生活や発達段階に合わせたデザインの工夫点にも気付くことができ、興味を持って取り組めるのではないかと考えた。分析時は、その良さだけでなく改善点にも目を向けさせ、自分の実体験を基に考えさせたい。そして、通学鞆のデザイン画制作では、個々のアイデアを小集団で練り合い一つの形にし、プレゼンテーションの形を取り入れ紹介させることで、デザインした通学鞆の良さを的確に伝える方法を工夫させたい。

7 評価目標と評価方法

評価目標	評価方法
①自分にとって心地よいものや考えた通学鞆のデザインについて、自分の価値意識や根拠を持って積極的に説明している。 (関心・意欲・態度)	◎パフォーマンス課題 附属中生にとってよりよい通学鞆をデザインしよう
②通学鞆について、意見交換を行いながら主体的に分析し説明することができる。 (鑑賞の能力)	附属中学校の通学鞆のデザインを一新するために、在校生からアイデアを募集します。現在の通学鞆の良さを参考にしながら、附属中生にとってよりよい鞆になるようにデザインを考えなさい。 (評価目標の①③④)
③学校生活に合った美しさや機能性を保ちながら、附属中生の生活に合った通学鞆のデザインを工夫することができる。 (発想・構想)	○観察 (評価目標の①②) ○ワークシート (評価目標の②③)
④デザイン画を、色えんぴつや定規等の用具を用いて丁寧に仕上げることができる。 (創造的な技能)	

8 指導計画（全5時間）

学習内容	評価規準（観点）	時間
○「自分にとって心地よいもの」（冬休み課題レポート）を紹介し合おう。	◇自分にとって心地よいものについて、自分の価値意識や根拠をもって積極的に説明している。（関心・意欲・態度）	1
○パフォーマンス課題 「附属中生にとってよりよい通学鞆」をデザインしよう。	◇通学鞆のデザインについて、主体的に分析し説明することができる。（関心・意欲・態度）	1 (本時)
	◇通学鞆のデザインについて、意見交換を行いながら美しさや機能性の観点で分析し説明することができる。（鑑賞の能力） ◇学校生活に合った美しさや機能性を踏まえて、附属中生に合った通学鞆のデザインを工夫することができる。（発想・構想） ◇デザイン画を、色えんぴつや定規等の用具を用いて丁寧に仕上げる。（創造的な技能） ◇考えた通学鞆のデザインについて、自分の価値意識や根拠を持って積極的に説明している。（関心・意欲・態度）	3

9 本時の指導（2／5時間）

(1) 主 題 「暮らしの中の美と用について考えよう」ー私たちがデザインする通学鞆ー

(2) ねらい

通学鞆のデザインを観察し、その良さや改善点を分析することで、使用する目的に合ったデザインの美しさや機能性の大切さについて理解することができる。

(3) 展 開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価（方法）
1 パフォーマンス課題を知る。 （一斉）	3	【課題】「私たちがデザインする通学鞆」 附属中生にとってよりよい通学鞆をデザインしよう 【本時の課題】通学鞆の良さや改善点を分析しよう	
2 多様な形の鞆やバッグを観察する。（一斉）	10	○肩掛け鞆やランドセル、登山用リュック等の多様なデザインの鞆を観察しよう。	○個人が持参した鞆も含めて、多様なデザインの鞆を紹介することで、鞆への興味を持たせる。
3 中学校の通学鞆を分析し、グループで意見交換を行い、内容をまとめる。 （個人） ↓ （小集団）	27	○肩掛け鞆やランドセルと比較し、中学校の通学鞆の美しさや機能性について分析しよう。	○肩掛け鞆やランドセル等、他のデザインと比較させることで、使用環境や目的、使用者の年齢に合ったデザインかどうかを考えさせる。 ○ワークシートに根拠を記入させることで、自分の意見を明確にさせる。

		○グループで通学鞆の分析内容とその根拠について話し合い，意見をまとめよう。 ・形の工夫（2 way・中学生の体型に合っている・ポケット・用具が入りやすい・肩部分にクッション・縁取りがあり丈夫・教科書が傷みにくい・シンプル） ・色の工夫（落ち着いた配色・学習の場にふさわしい・附属マーク付・濃い色のため汚れても目立たない） ・材質の工夫（防水加工・柔らかい・軽い） ・安全面の工夫（金属の使い方・反射テープ）	○形・色・材質・安全性の観点でまとめながら通学鞆の美しさと機能性を確認することで，理解を深めさせる。 ○形や色，材質の工夫点や改善点を实体験に基づく根拠を持って説明させることで，論理的に思考し表現する学び合いをさせる。	
4	グループでまとめた意見を発表する。(全体)	7	○グループでまとめた意見を発表しよう。 ・通学鞆の美しさと機能性について理解する。	○根拠を明確にさせるために，不明な点は質問をさせる。 ◇通学鞆のデザインについて，使用する目的に合った美しさや機能性の観点で分析し理解することができる。 (ワークシート)
5	本時の内容を振り返り，次時の学習内容を確認する。(一斉)	3	○次時は，附属中生にとって心地よい通学鞆のデザインを考えよう。	○次時の学習内容を確認させ，デザイン画制作に必要な資料の収集を課題とする。
授業研究の視点		○学習活動3は，使用する目的に合ったデザインの美しさや機能性の大切さを，学び合いを通して理解させる手段として効果的であったか。 ○学習活動3は，論理的に思考し表現できる力の育成につながるものであったか。		
Memo				

